

## カナダと日本の違いに目を向け、相手を知り、自分を知る研修

レポート：小松千尋

### ★ひとつの地域の魅力を実感

私にとってこのケロウナ・バーノン研修は、新たなカナダを知り、そして日本を知る良い機会になりました。始めはカナダ・ウォータールーでの留学生生活を8ヶ月経験した後で、カナダの文化や歴史についてはもう随分知ることができたと“知ったつもり”になっていたところもあったと思います。しかし研修が始まってから、ウォータールーとはまた違うケロウナやバーノンで暮らしを目の当たりにし、改めてカナダという国の広大さとひとつひとつの地域の魅力を実感しました。

### ★相手を知り、自分を知る

そうして自分に重ねてみると、確かに神奈川という県をひとつ知ったからといって日本全体が分かるわけではないということや、神奈川県内でも東と西での特徴は全く違うということ、そしてそういう日本の中での違いに自分が魅力を感じていたことなどを思い出します。当たり前なようでいて、実は自分の価値観形成に大きく関わっていたこと、そのきっかけを見つめなおすことができたと思います。

カナダでの違いを知ることで、日本の違いに目を向ける。相手を知り、自分を知る。そういった単純で大切なことがこの研修全体を通して得たものの一つになりました。



### ★この研修だったからこそ

#### 経験できたもの

その中でも特に今回の研修テーマとなっていた「保育」「福祉」の分野でカナダと日本の実態を最前線で知ることができたのは、私の中での大きな変化にもつながりました。もともと母が作業療法士であったので、福祉の世界には興味を持っていました。留学中にもこの福祉先進国であるカナダで実践的に学べる機会を探していたので、今回の研修は私にとってまさに必要としていた内容でした。福祉や保育のスペシャリストに囲まれてカナダの、そして日本の現状と課題を話し合うというのはこの研

修だったからこそ経験できたものだと思います。

### ★新しい視点から見れるメリット

心理学や社会学で知識として学んだことが、実際にどう動いているのか、何が上手くいっていないのかを働く人たちの側からの視点で聞いたことで、大学講義の時よりも理解が深まったと思います。もともと持っていた知識の再構築や新しく入った情報の整理に忙しくなりましたが、自分に専門的な知識がないことで全く新しい視点から見れるというメリットもありました。更に、自分がこれから身に付けなければいけない知識や選択肢の幅も以前より明確に見えるようになりました。その点で、この研修は自分にとってレベルも高く、満足度も高いものであったと言えます。

### ★自分の中での「当たり前」と「常識」の違い

またカナダを知るという意味では、ホームステイでカナダの人々の暮らしを体験できたことも貴重な経験です。留学中は学生寮に住んでいたため、カナダの学生生活は知れたものの、カナダの人々が普段家族とどういう暮らしをしているのかといった家庭内でのカナダの文化をあまり見ることはありませんでした。

今回は1週間ホームステイによってカナダに住む家族の一員としてカナダの暮らしも体験でき、新鮮な気持ちで研修に取り組むことができました。ホストファミリーと過ごした中で知ったことは、些細なことから印象的なことまで全て自分に生きていると思います。

例えば学術面ではケロウナの人々と日本人の戦時中の歴史を教えてもらったり、美容面ではホストマザーとカナダのオーガニック美容ブームに乗っかってみたり、学んだことが自分のこれからの心構えとして、今の趣味として、過去の思い出として自分に蓄積され、自分が今までよりまた少し大人になれたような気がしています。

自分の中での「当たり前」を「常識」という曖昧な言葉で固める前に、今はもっともっと沢山の人と出会い、価値観と出会い、新しい自分と出会う場を大切にしていきたいです。

また、今回の研修で学んだことは知識として定着させるだけでなく、それらを仕事やこれからの人生に活かせるように学びと実践を重ねていきたいと思っています。



<オカナガン湖のヨットハーバーにて>